

教文通信写真館

Boris The Spider
—ボリスの蜘蛛野郎—

写真とエッセイ：倉石典広さん（生物教育研究会 伊那北高校） エッセイは8P

教文
通信発行所
長野県教育文化会議
発行人

田澤 秀子

今号の記事

01-02

図書館教育研究会
全県研究会報告

02-04

視察報告②

フランスとドイツの学校で
授業と生徒のクドプを見学

05-07

教育のつどい 2025 レポート紹介
第5分科会 理科教育
「免疫」をどう教えるか？

08

書籍紹介

全県研究会紹介

教文通信写真館エッセイ

6月21日（土）、県立長野図書館3階信州・学び創造ラボにて、学校図書館問題研究会長野支部へしながくととの共催で講演会を行いました。講師としてお招きしたのは、東京学芸大附属世田谷中学校の渡邊裕（ゆたか）さん（国語科教諭）と村上恭子さん（学校司書）のお二人です。

図書館教育研究会としては何年かぶりの全県研究会の開催となりました。国語科研究会や教文事務局からの呼びかけもあり、司書だけでなく先生方にも参加していただくことができました。

この報告を書くにあたり、東京学芸大学がWeb上で構築・運営している「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」について簡単に紹介します。このデータベースは、教員が学校図書館をより積極的に利用できるよう支援することを目的として、東京学芸大学

図書館教育全県研究会
学びの場としての学校図書館
どう使う？ どう学ぶ？



先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース

学校図書館活用DB 授業と学校図書館 読書・情報リテラシー 学校図書館の日常 テーマ別ブックリスト

今すぐ授業事例を探す

... 校種・教科・領域・学年を指定して授業実践を検索できます。

学校図書館は
新たな授業づくりを
応援します。

このサイトは文部科学省のプロジェクトとしてスタートしました。学校図書館を活用した授業実践をデータベース化しています。公開されている指導案、ワークシート、ブックリストを、新たな授業にお役立ていただければ幸いです。



東京学芸大学附属竹早中学校

もっと詳しく▶

当サイトの使い方

先生にインタビュー

● 授業と学校図書館

使いこなす情報のチカラ

● 読書・情報リテラシー

本の魅力を伝えるおれこれ

● 学校図書館の日常

使えるブックリスト

● テーマ別ブックリスト

ちょこっとアイディア



他の教育活動で学校図書館を効果的に活用するための事例を収集し、一般に公開しています。今回の講師はお二人とも、このデータベースの運営にも関わっておられます。

講演は、まず村上さんが司書として勤務された経緯や前出のデータベースについて話をされ、その後、渡邊先生から学校図書館や司書、他教科を巻き込んだ授業実践について話がありました。

他教科との連携では、国語と家庭科で同じテキストを使い、国語で参考文献の書き方なども学習してから家庭科ではそれを踏まえて授業を行ったそうです。家庭科以外でも、それぞれの教科との「共通言語」を探すことで連携が可能とのことでした。教科同士の横の連携が取れば、時間を有効に使えます。教科と教科の橋渡しは、長野県の場合なら司書がやれたら理想的です。大事なのは「お茶の時間」。渡邊先生が「お茶でも飲みながら話をすればいい」と何回かおっしゃっていたことが印象的でした。要は司書や司書教諭、教科担当などで世間話でもしながら授業の相談ができると良いということです。教科をこえて「学校図書館活用」について考える場、情報交換ができる場、そしてちよつと一息つける場を司書が提供するのでも大きなことかもしれません。

ワークショップでは渡邊先生考案の「タイトル五行歌」を行いました。4人グループの中で0から9の数字（十進分類法の数字に相当）のカードを引いて担当の分類を決め、その分類の中から気になるタイトルの本を1冊ずつ選び、タイトルがなんとなく文章になるように並べ替えます。最後

の1行（1冊）をどう決めるかはグループにお任せで、最後にどんな五行歌になったか発表しました。年齢に関係なく、楽しみながらできるので1年生の図書館オリエンテーションにも使えるそうです。

オンラインが出来るようになってから、距離的・時間的な制約もあり現地まで行く機会が減っていましたが、会場の雰囲気やワークショップを実際に体験するのは、やはりとても刺激になります。

視察報告②

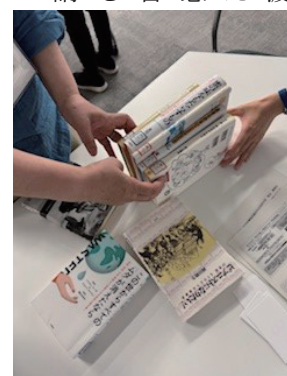
フランスとドイツの高校で授業と生徒の活動を見学

東京都立大学大学院客員教授 宮下 与兵衛

■学校運営への生徒参加

私は28年前にフランスとドイツの学校運営への生徒参加をモデルにして、辰野高校で「三者協議会」を提案して三者の賛成で発足し、現在まで28年間続いています。校則や授業や施設設備の改善について生徒会代表とPTA代表が意見表明でき、職員会代表との話し合いで合意したら改善できる参加と共同の場です。長野県内で三者協議会を続けている高校には、小諸高校、軽井沢高校、岡谷東高校、箕輪進修高校があり、また、生徒が参加し地域住民と協議する場合は高遠高校や松本深志高校が取り組んできました。

そして何より渡邊先生の「伝えたい」という思いが溢れた内容で、参加者側も元気を貰えた講演会でした。



図書館教育研究会
片桐 亜希子

フランスやドイツでは学校運営は三者の会議で決めると法律で定めて制度化しています。フランスでは三者による学校運営は1968年に若者の「参加」要求運動を政府が受け入れて実現しましたので、57年の歴史があります。この制度化された学校運営方式はヨーロッパ各国に広がり、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカ（シカゴなど）で行われています。

■フランスの生徒参加の成績会議を見学

パリの中で最も移民・難民が多く住むパリ20区は映画『パリ20区 僕たちのクラス』で描かれた

学校のある地区です。この映画には学校運営への生徒参加の場面がリアルに描かれていて大学の授業で学生に見せて、日本とフランスの学校の違いを考えさせてきました。その20区にあるフロア・トリスタン中学で成績会議への生徒代表参加を見学することができました。

フランスでは、校則や学校行事などを協議する「学校管理評議会」「生活のための評議会」と、問題行動を起こした生徒への指導を協議する「懲戒評議会」、そしてクラスごとに全員の成績を審議する「学級評議会」がありますが、いずれの会議も生徒代表と保護者代表が参加して行われます。欧米では小学校から成績不振による落第があり、暴力事件などによる退学（その場合は転校となる）がありますから、それらを決める会議への参加は大きな責任を伴います。

成績会議はクラスごとに行われ、参加者は校長とそのクラスを教えている教科担当全員、そして生徒代表2人と保護者代表1人で、2日間で全クラスの成績会議が行われます。クラス全員の各教科の成績が記載されたプリントが参加者に配布され、校長が司会を務め、一人ひとりの成績について審議していきました。各教科担当からその成績をつけた説明をし、校長は前期の成績と比較して成績不振の生徒についてはどんな手立てを講じたか教科担当に質問していきました。

通訳をしていただいた安發明子さん（フランス在住の子育て支援の研究者）によると名簿の名前から判断してほとんどの生徒は移民・難民の家庭の子供ということでした。担任から成績不振の

生徒について家庭の事情が語られました。今回は、発言はありませんでしたが、担任が把握していない生徒の家庭事情（ヤングケアラーなど）について生徒代表が発言して、成績不振の背景を明らかにすることもあったとのこと。

学校運営への生徒参加については、12月6日・7日に長野市の高校会館で「開かれた学校づくり全国交流集会」が開催され、教文会議が共催団体として参加しますので、ご参加ください。7日の分科会の1つが高校生・大学生分科会で、関心のある高校生はオンライン参加できますので、高校生にもご紹介ください。

■ドイツの学校見学

ドイツではリューベックにある職業高校と職業専門学校を見学しました。ドイツでは専門学校を終了してマイスターの国家試験に受かると、誇りを持った職人になります。私たちの聞き取りに5人の教師が部屋に集まり対応してくれました。ドイツの生徒の学校運営参加制度は「学校会議」



生徒・父母参加の成績会議
中央奥が生徒代表の2人

で、参加者の割合は生徒が1/3、保護者が1/3、教職員が1/3です。専門学校生は18歳以上なので保護者の参加はなくてもよいのですが、この学校では学生6人、保護者2人、教職員6人で行っているとのことでした。最近話し合ったテーマは、トイレの新設について、体育館の改修、ごみの分別、欧米の若者に多い「タトゥー（刺青）」について（禁止はされていない）だったということです。

平和教育は全教科で取り組んでいて、また、92歳のユダヤ人に来てもらい全校で収容所での体験を聞くなどしているとのことでした。最近、校門の前に軍隊がトラックで来て生徒を勧誘したことがあったが、生徒たちは棺桶を持ち出して勧誘反対をアピールし、帰るように行動したとのことでした。

■主権者教育・政治教育と 若者の政治意識について

欧米では主権者教育として、大人の選挙の前に、中学・高校で生徒たちが実際の政党に投票するジュニア選挙が行われます。今年2月の総選挙の前のジュニア選挙に向けて、生徒たちは各政党を呼んでディスカッションしたいと学校に要望して実施し、生徒たちの政治的関心は高いとのことでした。事前に近隣の5つの学校の生徒たちが政党への質問状をつくって回答をもらい実施しました。今回のドイツ総選挙で第2党に躍進したネオ・ナチズム政党AfDは、前回の政治ディスカッ

シヨンの時にテーマと関係ないことを言ったり、生徒の写真を手撮ったりしたので今回は招待しなかったとのことでした。生徒に最も人気があったのは、「ファシズム反対」を訴えた左翼党で、SNSでの訴えがうまかったとのことでした。



聞き取りに応じてくれた教師たち

教員の給与と年金についても聞きました。給与は校長クラスで日本円にして月80万円ほどで、年金は退職時の給与の70%が毎月支給されるということです。日本では38%ですから倍近いです。子どもへの児童手当は生まれた時から大学生の場合25歳まで毎月1人250ユーロ（現在1ユーロ165円）支給され、そして大学の授業料は無償です。日本の大学生のようにバイトと奨学金によって進学するようなことはありません。これは移民・難民にも保障されます。

ベルリン州教育省の教育研究所を訪問し、民主主義教育担当の研究者の話を聞きました。ドイツでは、「ヒトラーに国民がついていったのは、国民が政治に無関心だったから」という反省から、西ドイツ時代から政治教育が学校と地域の「政治

教育センター」で熱心に取り組まれてきました。しかし、近年の極右政党の台頭とそれに若者が惹かれていく状況から、各州文部大臣会議で「政治教育をさらに発展させた民主主義教育を学校教育、青少年育成の中心課題とする」と決め、学校を「民主主義を学ぶ場」とすると共に、子どもたちが「民主主義を生きる場」とすることを決めました。学校運営への生徒参加はまさに子どもたちの「民主主義を生きる場」としています。「これも基本法」ができて、意見表明権などの子どもの権利を学校で実施することになりましたが、子どもの権利条約の教員研修や子どもの学習を保障していない日本の教育行政が見習うべき課題だと思いました。この教育研究所は新任教員の研修所も兼ねていて、教員に1年間の研修を行っています。



玄関に掲げた標語

す。今回のジュニア選挙の結果は第1党が左翼党の25.3%、極右のAfDは第5党で14.7%、緑の党は9.3%で第6党でした。

また実際の選挙でも、18歳から24歳の若者の第1党は左翼党で25%、極右AfDは21%で第2党でした。他の政党は10%前半でした。ドイツには共産党はなく、左翼党が民主主義的社会主义をめざす政党です。欧米では新自由主義に反対し、民主主義的社会主义を望む若者が多く「左派世代」と呼ばれています。極右政党に惹かれる若者も増えていますが、極右に最も対抗し、物価高の中で消費税廃止と富裕層への課税を訴えた左翼党が最も支持された結果だったと説明してくれました。

首都ベルリンでは大人全体の第1党が左翼党だったということです。

日本でも公民科で選挙前に模擬投票などの実践が行われていますが、それは架空の政党、架空の政策で行われることが多く、若者の選挙に行かない理由が「関心がない・どこの政党に入れたらいいかわからない・投票しても政治は変わらない」という現状を変えるには欧米のやり方は参考になると思います。実際の政党・候補者に投票するやり方は日本でも「こども選挙」として全国に広がっています。

欧米各国の主権者教育、民主主義教育、子どもの権利条約を保障した生徒参加の学校運営、そして各国の若者の社会変革活動について拙著『若者とともに 地域をつくる 学校を変える 社会・政治を変える』（かもがわ出版）に書きました。ご関心のある方はお読みください。

教育のつどい2025 レポート紹介 第5分科会「理科教育」

「免疫」をどう教えるか？

長野西高校 中条校 小原 秀樹

■本校の特徴

1学年1クラス、全校生徒70名（2025年6月現在）の小規模キャンパス校。本年度30名いる2年生も「進学」「教養」の2コースに分けているので、どの学年も20名程度またはそれ以下の少人数講座を実現しています。本校はこのように「少人数ならではのきめこまやかな教育」を売りにしているので、入学してくる生徒の大半は、中学の時に不登校だったり、保健室登校や特別支援学級だったり、大人数の集団が苦手だったり、様々な特性を持っているなどです。そんな生徒たちの多くは、本校に入学してから学校生活を積極的に送ることができるようになり、大きく成長して卒業していきます。指導がたいへんな生徒も多く、教員ひとりひとりの負担は年々増えてきていますが、少人数ゆえ、生徒とわれわれ教員の距離が近いという特徴を生かして、生徒に寄り添った指導を常に心がけています。理科は、1年生で「科学と人間生活」3単位、2年生で「生物基礎」3単位、3年生は選択で「地学基礎」2単位実施しています。

■理科の授業の進め方

自作の授業プリント（書き込み式）とタブレット（主にロイロノートを利用）を使って進めます。

■「免疫」の単元をどう教えているか

1. アニメ「はたらく細胞」の一部を見せて（本校にDVD全巻あり）免疫のイメージをさせ、免疫細胞の名前とそのはたらきをざっくりと理解させる。

2. 授業プリントNo.15～18を使って進める。

No.15…物理的・化学的防御、免疫器官、免疫細胞

No.16…自然免疫

No.17…獲得免疫

No.18…免疫寛容、アレルギー・自己免疫疾患・

免疫不全症、予防接種・血清療法

*このとき、アニメ「はたらく細胞」の映像や、他の視聴覚教材（免疫のしくみを示したアニメーション教材など）も使用



カードゲームその1

授業の様子



ロイロノート

免疫細胞キャッチコピー（Cグループ）



ロイロノート

免疫細胞キャッチコピー（Dグループ）

3. 授業プリントNo.19で「免疫」の単元のまとめ・復習としてグループワーク等を行って知識の定着を図る。

■生徒の感想

書き込み授業プリントを使って進めていること

- ・自分なりにまとめる必要がないので楽。書くことが少ないので、ポイントだと感じるものがあればすぐに記入できるところがよいです。
- ・穴埋め感覚で楽しく学んでいます。
- ・プリントは簡潔にまとめられているので、とてもわかりやすいです。
- ・キーワードを見つけやすいので、プリントでやるのは楽しいです。
- ・ふつうの授業よりもわかりやすく学べます。
- ・ロイロノートを使った「免疫細胞のグループ分け」と「免疫細胞のキャッチフレーズ付け」
- ・キャッチフレーズを付けるにあたって、免疫細胞の様々なところを理解する必要があるのいいと思います。
- ・シンキングツールを使うことで、とてもわかりやすくきれいにまとめられてよいです。
- ・カードを提出したり、グループで共有ノートを使うことの方が、自分の考えを発言しやすくてよいです。
- ・グループに分かれてやると楽しく考えられてよいです。
- ・これからの時代に必要な多様な情報から必要な情報を選び取る力とか、その情報を自分なりにまとめる力が身に付くのでとてもいいと思います。

アニメ「はたらく細胞」の

DVDを活用していること

- ・アニメは楽しく学ぶことができていると思います。でも、自分はNHKの教育用ビデオのような(例えば 10 min ボックス)少し難しいものが好きです。
- ・どんな細胞がいるのかとか、その細胞の役割などを自然に覚えてしまうので、授業で使うのとても効果的だと思います。
- ・授業で扱う内容以上の詳細がわかるのもいいし、アニメとしてもとても楽しくていいです。
- ・あらかじめアニメを見ることで、免疫とは何なのか、どのように行われているのかがイメージしやすかったです。
- ・教科書や文字だけの説明よりも、アニメを見ることで、キャラクターの顔やはたらきがずっと出てくるのでとてもいいです。

カードゲームを使って

免疫細胞の名称やはたらきを理解すること

- ・ゲームに集中してしまい、細かいことを考えられなかった…けどおもしろかった。
- ・ルールが少し複雑でしたが、グループで楽しく学べてとてもよかったです。
- ・楽しくやりながら覚えられるのはとてもいい。
- ・カードゲームを使って学ぶのは新鮮でした。
- ・なぜこの2枚のカードはいっしょに出せるのか…とか、ルールの意味を考えながらやりました
- ・が、それがいい学習になりました。

免疫細胞のコマとシートを使ったグループワーク

・実際に手を動かすので、より理解が深まりました。

・自分でコマを動かしながらグループの仲間に説明することで、記憶が定着しました。

オリジナルソングで

ウイルスや免疫細胞のことを理解すること

- ・とてもよかったです。歌詞を人に当てはめて考えると面白いと思いました。
- ・いい曲だし、歌詞もとてもおもしろかったです。ウイルスなどのことを考えながら聴くことができてよかったです。
- ・今まで学んだことが歌詞に入っていていいと思いました。
- ・意味がわかるととてもいいお話だなと感じました。
- ・作り込みがすごいと思いました。覚えやすいです。
- ・授業の中に歌があることで、興味を持つことができてよいです。

■まとめ

本校生徒の学力や特性によるところがあると思いますが、アニメの視聴、カードゲームの活用、作業的グループワークはかなり効果的でした。特に、免疫の単元の学習に先立って、アニメ「はたらく細胞」の、ほぼすべての免疫細胞が登場する回を見せることで、免疫のイメージができて、その後の授業もアニメのキャラクターを思い浮か

べながら学習を進めることができたようで、興味や理解が進みました。理科が苦手だと思っている生徒や、学力的に低位な生徒ほど、その効果があったように思います。ロイノートを使ったグループワークや作業的グループワーク、グループで行ったカードゲームは、すでにいい仲間関係ができあがっていることと相まって、気がねなく楽しく、知識の定着につながることができたようです。カードゲームはあまり時間を取らなかったのですが、十分時間を取ってルールを理解しながら進めることで、さらに免疫の理解につながるものになると思います。生徒たちは、思った以上に単なる「遊び」で終わらせていませんでした。オリジナルソングは、「感染細胞は無抵抗にキラーT細胞に殺される」ということを聞いたことがあり、そこから発想を広げて作ったのですが、全国の高校で生物の教材として使っていたのが私の希望です（笑）。…という話は置いておいて、生徒たちは歌詞の意味を考えながら聴いてくれたようで、免疫の理解の一助になったのではないかと思います。「自分たちがわかりやすいようにと、先生がプリントを作ってくれたり、タブレット学習の準備をしてくれたり、DVDやゲームまで活用してくれたりしてくれるので、授業が好きになって、もっと勉強したいという気持ちになります。先生には感謝しかないです。」と感想を書いてくれた生徒がいました。励みになりましたし、こちらこそそんな気持ちで授業に臨んでくれていて感謝です。

Song of IV

作詞・作曲・編曲 Hideki Ohara

木々の彩り束の間で
風に踊るは赤黄色
もの悲しい季節が来ると
あの人のこと思い出す

このからだを動かすため
私たちははたらいてる
来る日も来る日も呼吸をして
代わり映えない日々は続く

風（風邪）のように
今年もやってきた
私の心見透かしているように

あなたは Influenza Virus
とりつかれ 乱されて
私の中で増えてく
ずっとこのままでもいいのに
きっとすぐ私は壊れ
このからだも壊されてく

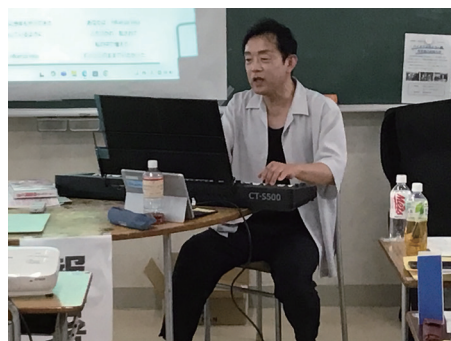
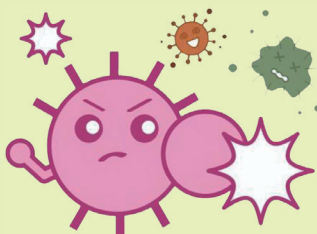
私は知ってる
あなたは私たちの中でしか
生きられないこと
だから愛しい
でもこのからだ守るためいっそ…

気がつけばどこからやってきた？
私の思い届いたかのように

あいつは Killer T細胞
今私ができること
この命差し出すこと
あなたといっしょに果てていくの
切っ先を確かめて
あいつが叶えてくれる

あなたは Influenza Virus
とりつかれ 乱されて
私の中で増えてく
ずっとこのままでもいいかった
でもこれであなたと私
永遠にひとつになれる

あいつの目に光るもの
消えゆく意識の中で見えた



第5分科会 理科教育研究会
会場は自由の森学園
レポーター小原秀樹さん
オリジナルソングを熱唱！！
オリジナルソングはYouTube 公開中
⇒ URL は次号で紹介 乞うご期待！！

本の紹介

宮下与兵衛さん視察報告② (2p) に関連して

「若者とともに 地域をつくる 学校を変える 社会・政治を変える (かもがわ出版)」

日本では、公民科で選挙前に模擬投票などの実践が行われていますが、それは架空の政党、架空の政策で行われることが多く、若者の選挙に行かない理由が「関心がない・どこの政党に入れたらいいかわからない・投票しても政治は変わらない」という現状を変えるには欧米のやり方は参考になると思います。実際の政党・候補者に投票するやり方は日本でも「こども選挙」として全国に広がっています。

欧米各国の主権者教育、民主主義教育、子どもの権利条約を保障した生徒参加の学校運営、そして各国の若者の社会変革活動について、『若者とともに 地域をつくる 学校を変える 社会・政治を変える』(かもがわ出版)に書いています。(本通信2p視察報告②より抜粋)



まなびの秋がやってくる 全県研究会紹介 どなたでも参加可



講師

金平茂紀さん

参加申込はコチラ ↓



「断絶が進む社会で、
教育の現場に求められること」

伊那北高校

9月13日(土) 10時～12時

上伊那支部・
参加と共同の学校づくり研究会

問い合わせは
箕輪進修高校 中村富貴子さん 0265-79-7649 (直通)



講師

松本猛さん

「戦後80年 いわさきちひろと
絵本作家たちが描いた『平和』」

安曇野市穂高交流学習センターみらい

9月27日(土) 10時～11時半

安曇支部・図書館教育研究会

問い合わせは
穂高商業高校 上村正彦さん 0263-82-2162

教文通信写真館エッセイ

「Boris The Spider—ボリスの蜘蛛野郎—」

皆さん、クモはお好きですか？

私は・・・小さいクモはかわいいので好きですが、大きいクモはちょっと苦手ですね。特にジョロウグモが苦手です(好きな人ごめんなさい)。あの色とあの大きさ・・・山を歩いている最中にあんなものが自分の顔にへばり付いてきたらと思うとぞっとしますね。というわけで、クモの巣が張っていきそうなところではいつも木の枝を振り回しながら歩いています。

さて、今回はオオハシリグモがリュウキュウアカガエルを捕食している写真です。クモの足と木の枝の形、カエルの体色と岩の色が似ているのでかなり分かりにくいですが、カエルが右脚を齧られたまま宙づりになっている様子をとらえたものです。オオハシリグモは奄美群島以南の南西諸島に分布する、日本最大のクモの一種です。大きい個体では、脚まで含めるとヒトの手のサイズ(20cmくらい)になり

ます。先述のジョロウグモもなかなかのサイズになります。それを上回る大きさですね。因みに、やはり同じく奄美群島以南の南西諸島には、オオジョロウグモという、ジョロウグモをさらに大きくした特大のクモが生息しています。オオジョロウグモはちょうど我々の顔の高さ位のところに巣を張ることが多いので、夜の山を歩く際に鬱陶しいですが、写真のオオハシリグモは巣を張ることはなく、水辺や水上に慎重しく佇んでいるので、私はオオハシリグモの方が好きです。オオハシリグモは、カエルだけでなく、水中のオタマジャクシや魚まで捕食します。佇まいは慎ましいですが、食べるものはワイルドですね。

クモとみると気持ち悪がってすぐに潰れてしまおうと思う人も多いかもしれません。しかし、よく見てみるとかわいらしいものですし、ゴキブリなどの害虫を食べてくれる側面もあるのです。見た目に惑わされずに中身で判断する、そんな人になればと思った今日の頃です。